

3 原子力防災

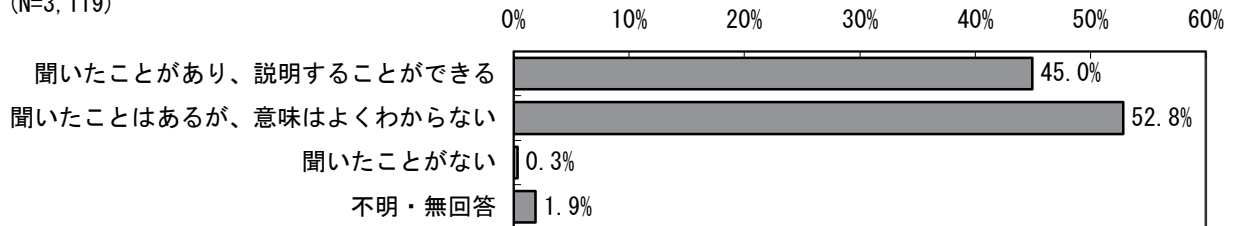
(1) 放射線の認知度

問15 あなたは放射線の意味を知っていますか。(○は1つだけ)

◆「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が52.8%

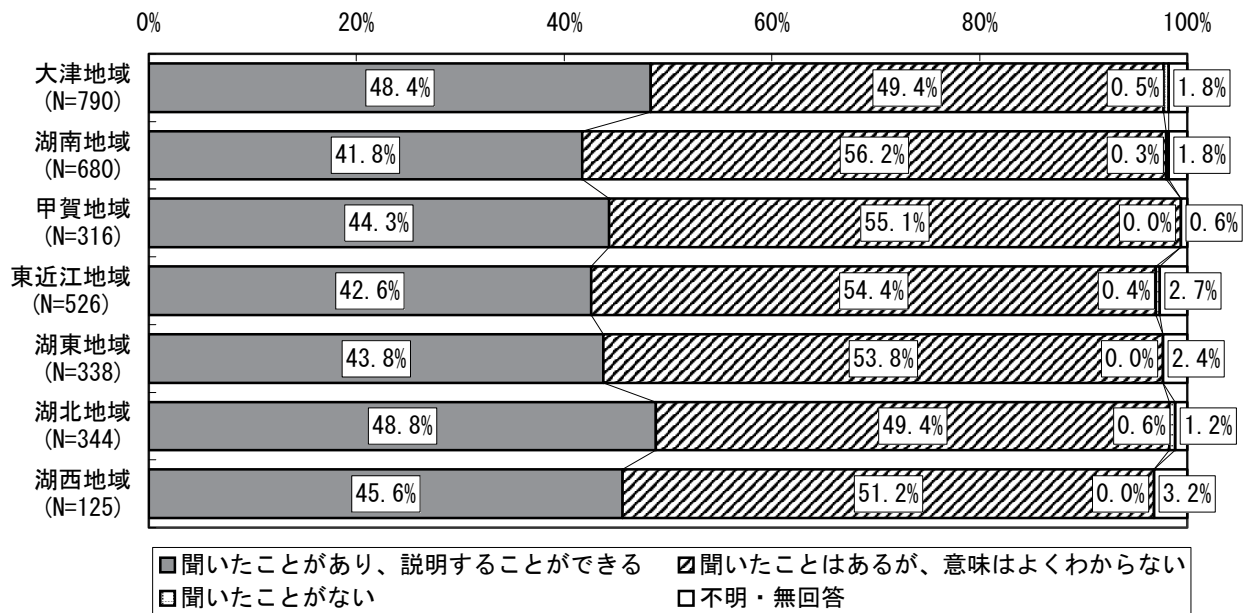
放射線の意味の認知度については、「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が52.8%で最も多く、以下、「聞いたことがあり、説明することができる」が45.0%、「聞いたことがない」が0.3%となっている。

(N=3,119)



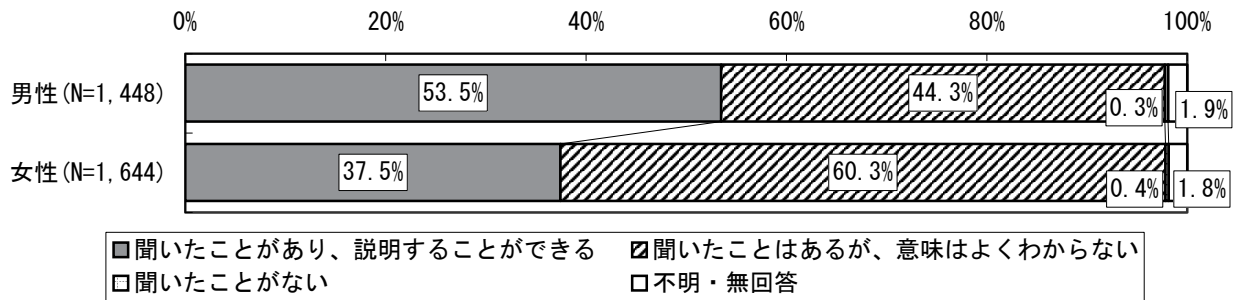
【地域別】

いずれの地域においても「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が最も多く、次いで「聞いたことがあり、説明することができる」となっている。



【性別】

男性では「聞いたことがあり、説明することができる」が53.5%で最も多く、女性では「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が60.3%で最も多くなっている。



【性・年代別】

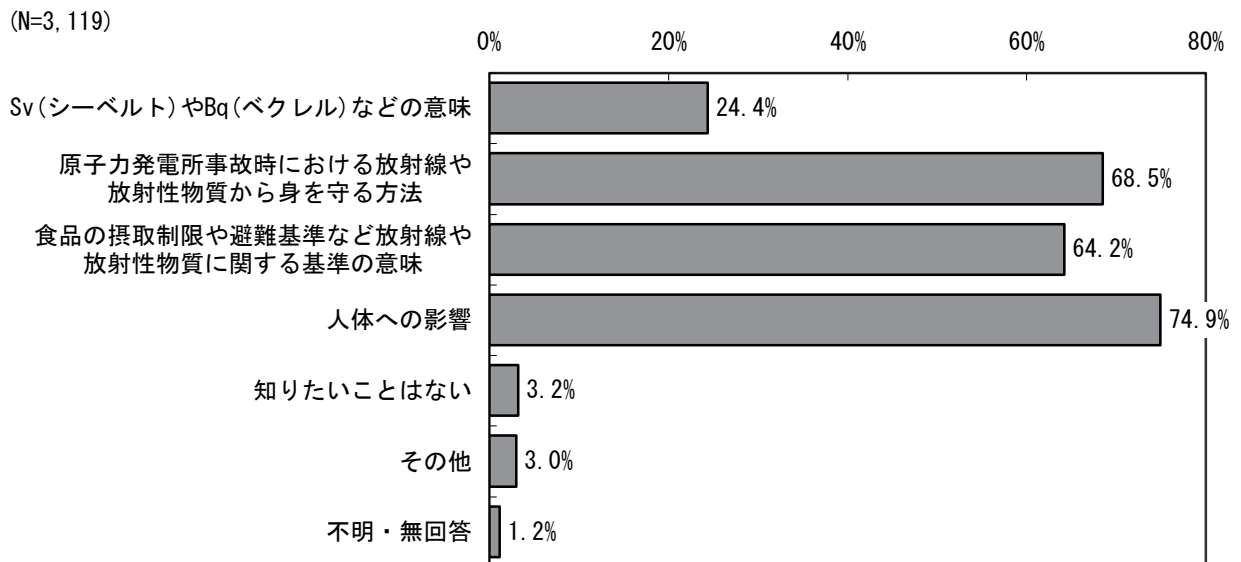
男性の30歳代～60歳代では「聞いたことがあり、説明することができる」が最も多く、5割を超えているが、その他の性・年代では「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が最も多く、5割を超えている。

(2) 放射線について知りたいこと

問16 あなたは放射線についてどのようなことが知りたいですか。(〇はいくつでも)

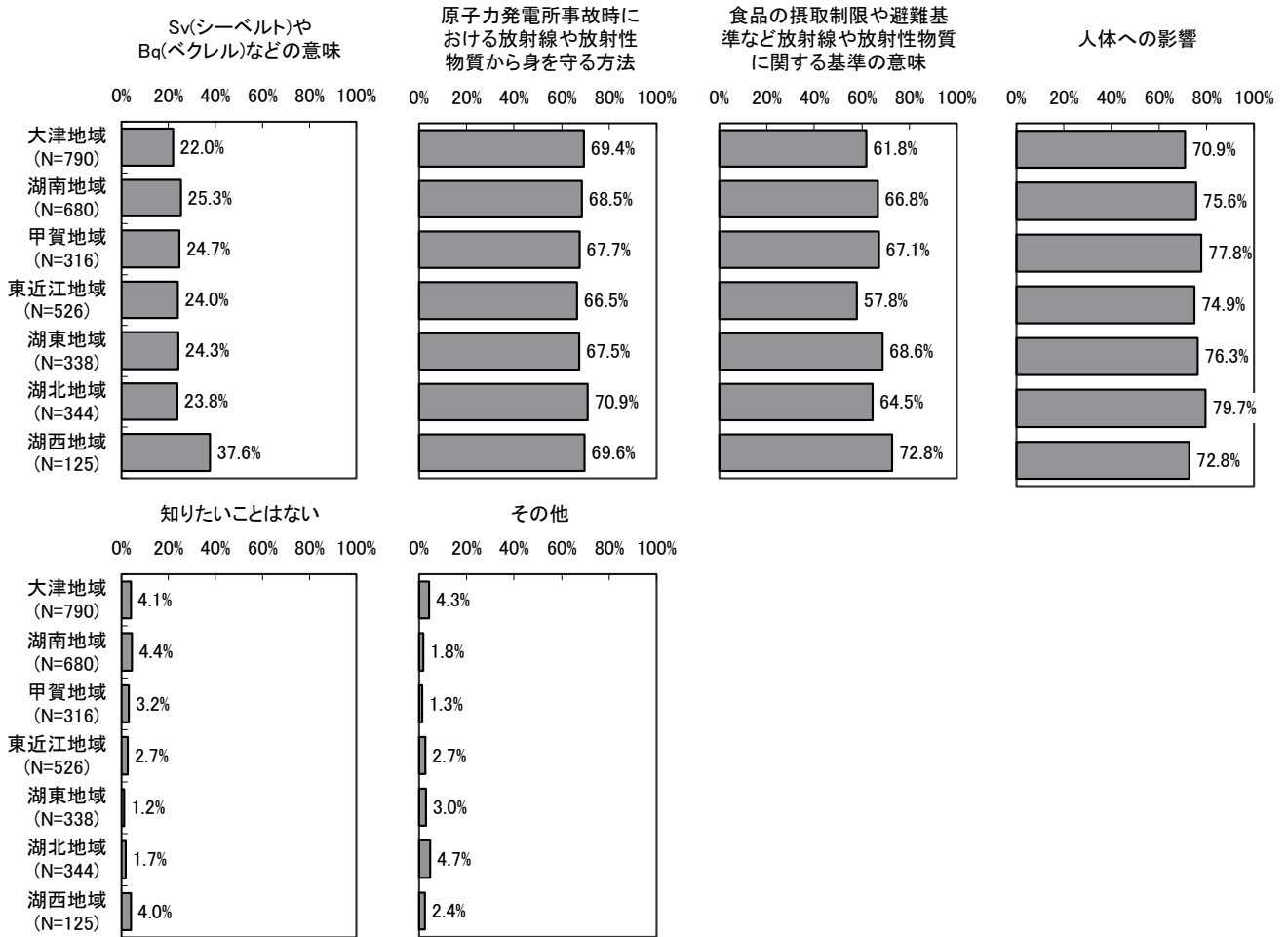
◆「人体への影響」が74.9%

放射線について知りたいことについては、「人体への影響」が74.9%で最も多く、以下、「原子力発電所事故時における放射線や放射性物質から身を守る方法」が68.5%、「食品の摂取制限や避難基準など放射線や放射性物質に関する基準の意味」が64.2%と続いている。



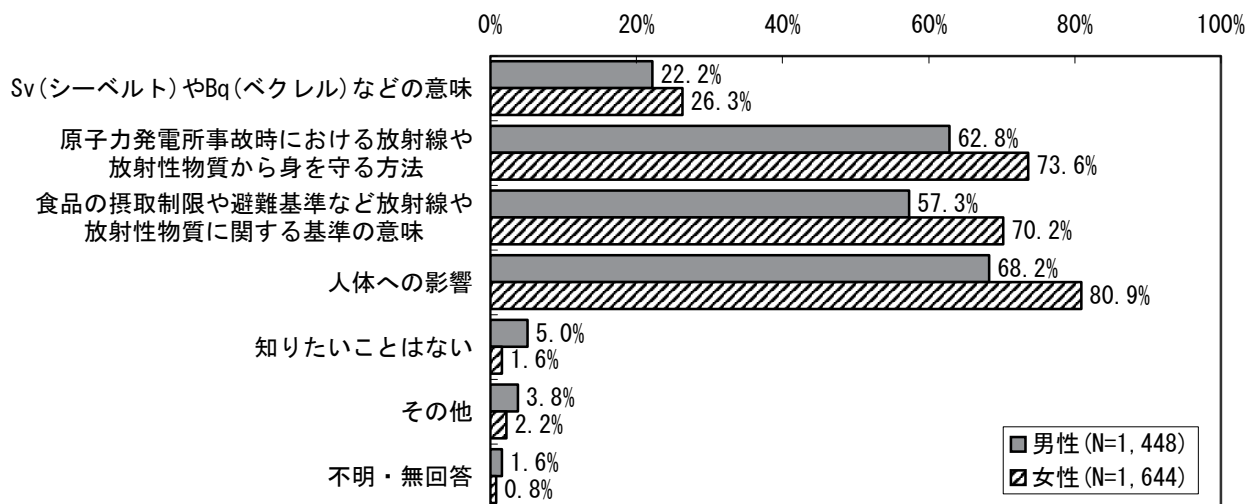
【地域別】

いずれの地域においても「人体への影響」が最も多くなっている（湖西地域では「食品の摂取制限や避難基準など放射線や放射性物質に関する基準の意味」も同率で最多）。



【性別】

男女ともに「人体への影響」が最も多く、以下、「原子力発電所事故時における放射線や放射性物質から身を守る方法」、「食品の摂取制限や避難基準など放射線や放射性物質に関する基準の意味」と続いているが、これらの項目はいずれも女性が男性に比べて10ポイント以上多くなっている。



【性・年代別】

いずれの性・年代においても「人体への影響」が最も多く（女性の70歳以上では「原子力発電所事故時における放射線や放射性物質から身を守る方法」も同率で最多）、このほかに、上位3項目には「原子力発電所事故時における放射線や放射性物質から身を守る方法」と「食品の摂取制限や避難基準など放射線や放射性物質に関する基準の意味」が入っている。

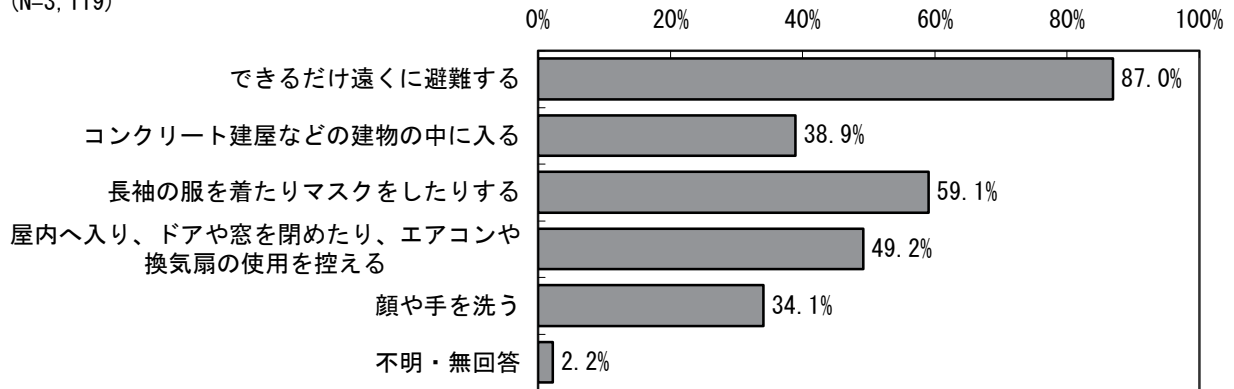
(3) 原子力発電所事故時に放射線から身を守る方法の認知度

問17 原子力発電所事故時に放射線から身を守る方法について知っているものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

◆「できるだけ遠くに避難する」が87.0%

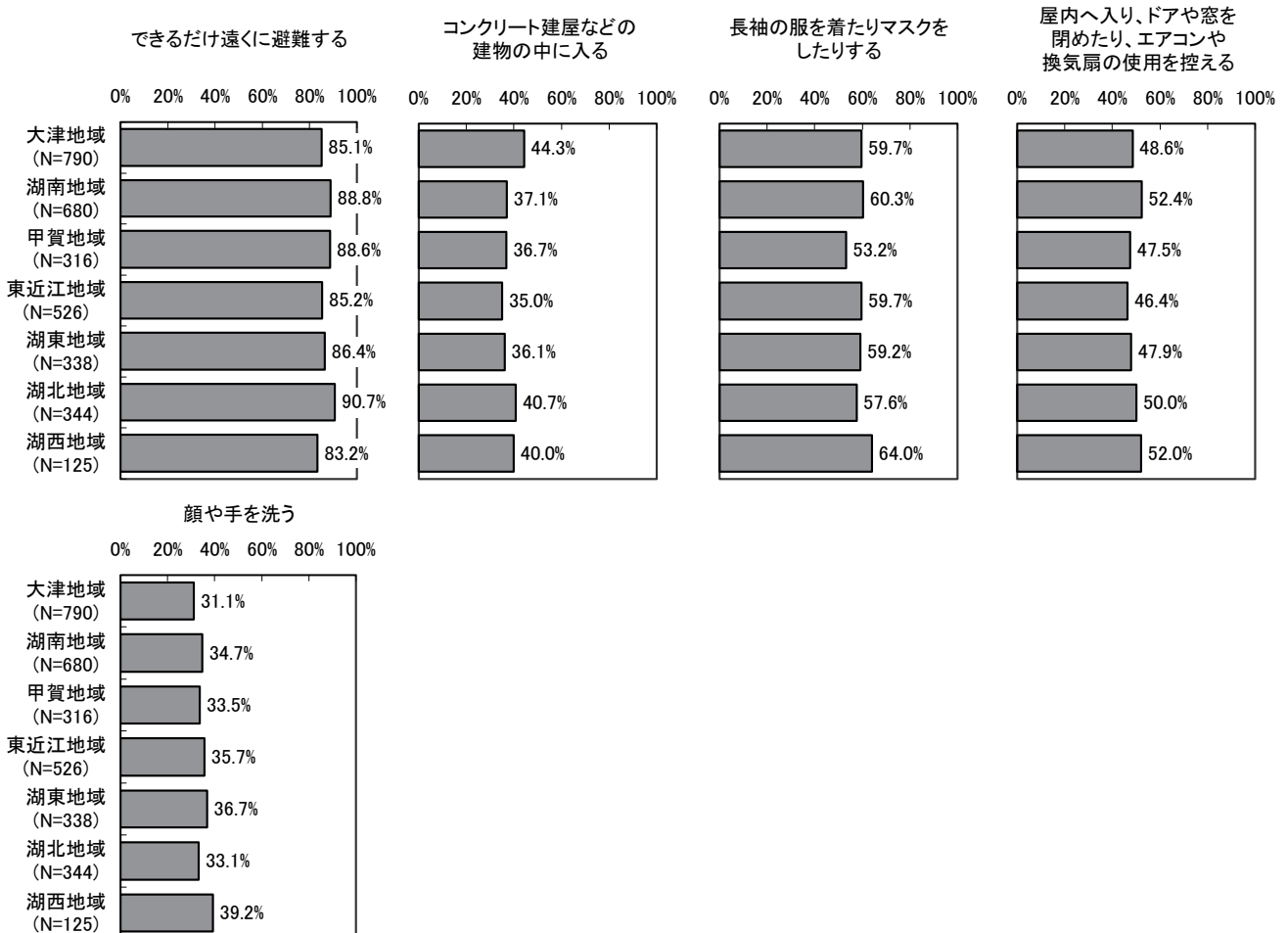
原子力発電所事故時に放射線から身を守る方法の認知度については、「できるだけ遠くに避難する」が87.0%で最も多く、以下、「長袖の服を着たりマスクをしたりする」が59.1%、「屋内へ入り、ドアや窓を閉めたり、エアコンや換気扇の使用を控える」が49.2%、「コンクリート建屋などの建物の中に入る」が38.9%と続いている。

(N=3,119)



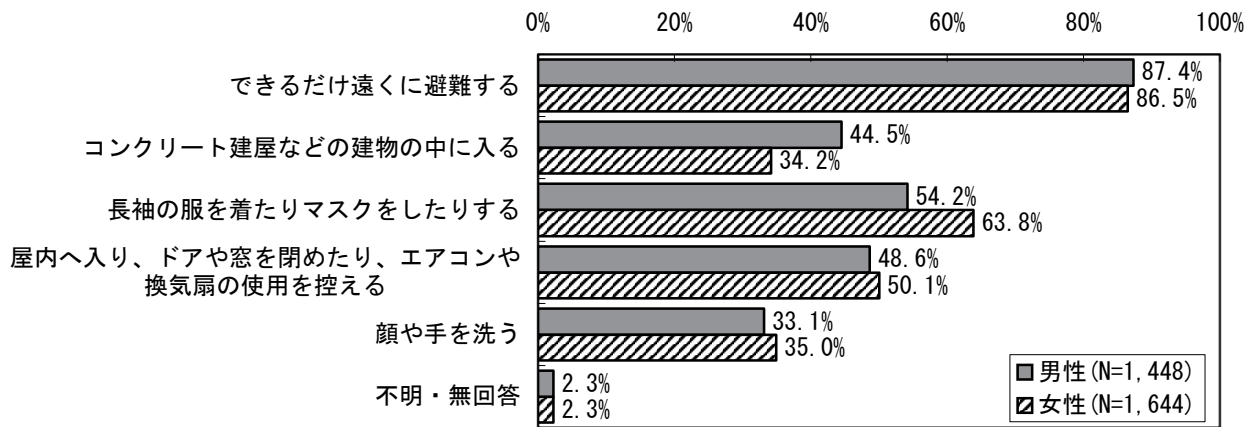
【地域別】

いずれの地域においても「できるだけ遠くに避難する」が最も多く、8割を超えており、次いで、「長袖の服を着たりマスクをしたりする」となっている。



【性別】

男女ともに「できるだけ遠くに避難する」が最も多くなっている。次いで、男女ともに「長袖の服を着たりマスクをしたりする」となっており、女性（63.8%）が男性（54.2%）に比べて9.6ポイント多くなっている。



【性・年代別】

いずれの性・年代においても「できるだけ遠くに避難する」が最も多く、8割を超えている。次いで、男性の60歳代では「屋内へ入り、ドアや窓を閉めたり、エアコンや換気扇の使用を控える」が多く、その他の性・年代では「長袖の服を着たりマスクをしたりする」が多くなっている。

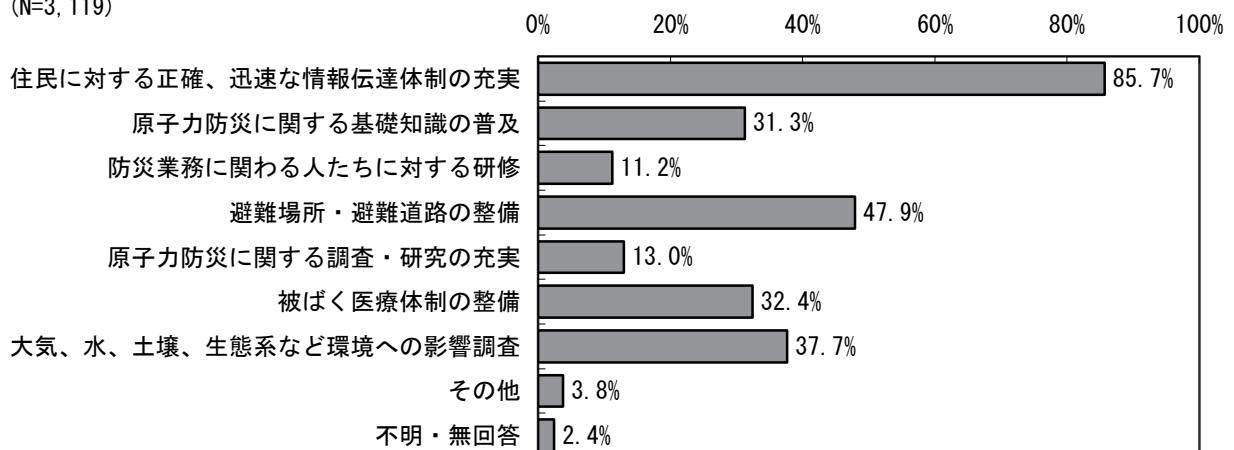
（４）原子力防災において、行政が重点をおいて進めるべき対策

問18 あなたは原子力防災において行政が特に重点をおいて進めるべき対策はなんだと思いますか。（〇は3つまで）

◆「住民に対する正確、迅速な情報伝達体制の充実」が85.7%

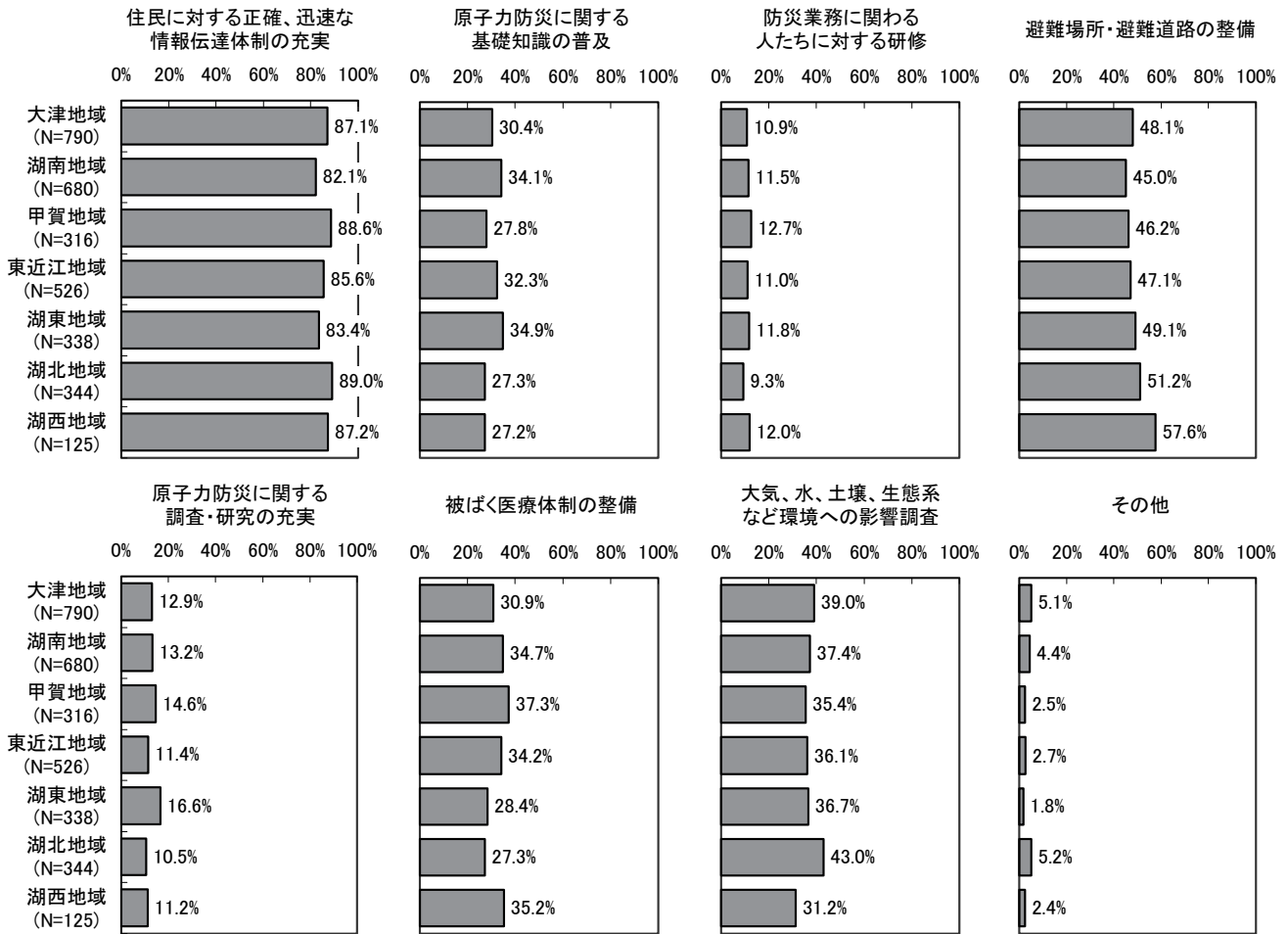
原子力防災において、行政が重点をおいて進めるべき対策については、「住民に対する正確、迅速な情報伝達体制の充実」が85.7%で最も多く、以下、「避難場所・避難道路の整備」が47.9%、「大気、水、土壌、生態系など環境への影響調査」が37.7%、「被ばく医療体制の整備」が32.4%、「原子力防災に関する基礎知識の普及」が31.3%と続いている。

(N=3,119)



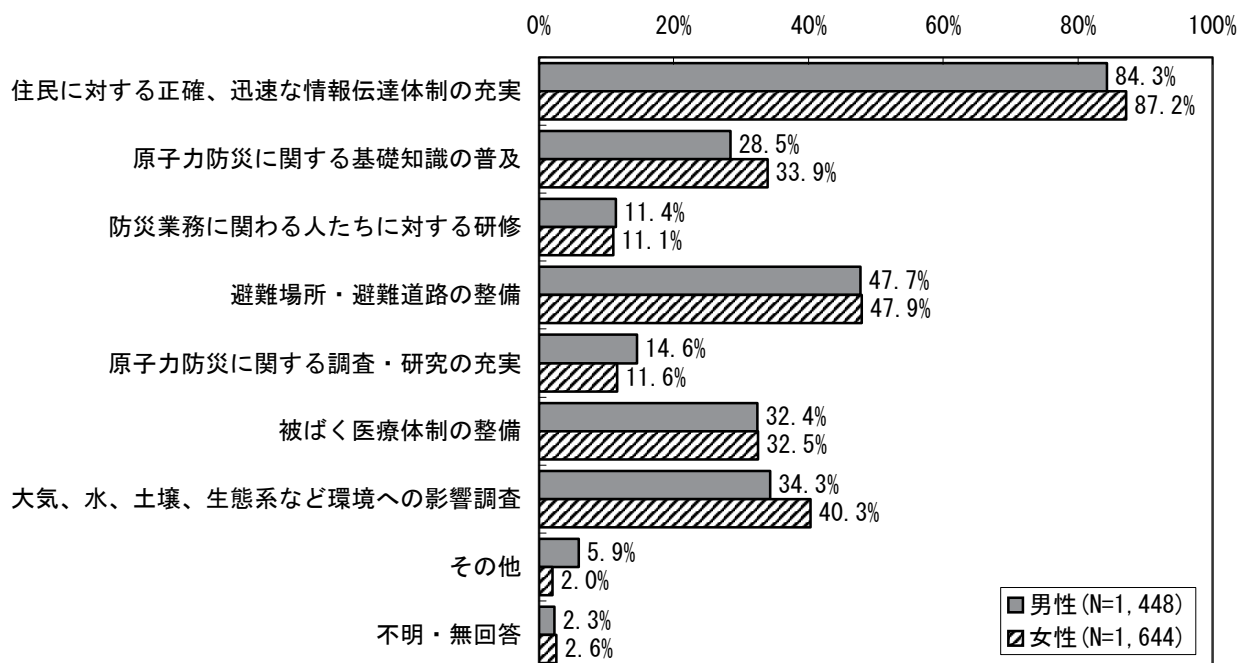
【地域別】

いずれの地域においても「住民に対する正確、迅速な情報伝達体制の充実」が最も多く、次いで「避難場所・避難道路の整備」となっている。



【性別】

男女ともに「住民に対する正確、迅速な情報伝達体制の充実」が最も多く、次いで「避難場所・避難道路の整備」となっている。「原子力防災に関する基礎知識の普及」や「大気、水、土壌、生態系など環境への影響調査」は、それぞれ女性が男性に比べて5ポイント以上多くなっている。



【性・年代別】

いずれの性・年代においても「住民に対する正確、迅速な情報伝達体制の充実」が最も多く、女性の30歳代と50歳代では9割を超えている。次いで、女性の30歳代では「被ばく医療体制の整備」が多く、その他の性・年代では「避難場所・避難道路の整備」が多くなっている。